

次期「北九州市生涯学習推進計画」について

1. 北九州市生涯学習推進計画について

- 北九州市基本構想・基本計画の部門計画の1つ。
- 教育基本法第17条第2項の規定に基づく、地方公共団体が定める「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付け。
- 令和3年度の策定の「北九州市生涯学習推進計画≪“学びと活動の環”推進プラン≫」が5年目を迎え、今年度で最終年となることから計画を更新する。

2. 次期北九州市生涯学習推進計画（以下、次期推進計画）の概要について

- (1) 計画期間 令和8年度～令和12年度の5年間
- (2) 計画の対象 主に「社会教育」「家庭教育」分野

3. 策定作業について

- 北九州市の付属機関である社会教育委員会議を中心に議論を行う。
- 学識経験者による「次期北九州市生涯学習推進計画策定等に関する有識者会議」を設置し、広く意見を聴取する。

4. 次期「北九州市生涯学習推進計画」のポイントについて

- 次期計画は、現在策定中の「地域コミュニティビジョン」の議論の方向性を踏まえて、2040年までの中長期の視点で、これからの生涯学習行政について羅針盤のように大きな方向性を示す内容とする。
- 次期推進計画では、「生涯学習を通じて『知らない・誰か』ことを『私たちごと』に」することで、学びと学びを生かした活動を活性化し、「共に学び、共に育つ『共育』が拓くまちの未来」を目指す。
- 次期推進計画は、2040年までの15年間を対象としながらも、最初の5年間の取り組みを中心に策定する。内容については、おおむね5年おきに見直しを図る。

5. 今後について

- 本計画は、各行政分野における基本的な政策を定める計画であることから、市民意見提出手続（パブリックコメント）を実施する。年内での実施を予定。
- 提出された意見を考慮し、今年度末までに最終案を取りまとめる予定。

【社会的背景】

- VUCAの時代の到来
- 人生100年時代の到来
- 地域コミュニティの衰退、課題の多様化・顕在化

【進行する社会課題】

- 低い幸福度
22か国中最下位（2025年ハーバード大学調査）
- 孤独・孤立化の進展
・4～5割の人が孤独を感じる社会（人々のつながりに関する基礎調査）
・2040年、単身世帯は約40%に
- 既存コミュニティの弱体化
自治会・町内会の加入率の低下（北九州市では30年で約40%減）、PTAの弱体化

【「学び」のニーズ】

- いつでも、どこでも、気軽に学びたい
生涯を通じて学び続けられる環境を
- 変化の激しい社会に対応していきたい
キャリアアップ、スキルアップのための学びの機会を
- 豊かな人生を送りたい
学びや健康づくり、多様な人とつながる機会を

【「学び」の現状】

- 学んでいない理由
「きっかけがない」、「時間がない」がそれぞれ約3割
- 生涯学習に関する国・自治体への要望
国や自治体に対する要望は、学習の機会・内容の充実が約4割、学習支援の充実が約3割
- 学びの成果の活用
地域や社会の活動への参加意欲はあるが、学びの成果を活用しているのは約1割
地域や社会の活動へつなげるために必要とされていることは、講座等の学びを通じたきっかけ作りが約5割

内閣府「生涯学習に関する世論調査」

【目指すまちの未来（2040年）】

共に学び、共に育つ

「共育」が拓くまちの未来

【変革点】

生涯学習を身近に
「学び」と「活動」で幸せに
「知らない・誰か」のことを
「私たちごと」に

【次期計画のポイント】

- ①地域コミュニティビジョンと歩調を合わせた長期的な視点での策定
- ②企業、NPO、学生、社会教育士等の多様な力を生かした学びと活動の推進
- ③ICTを活用した生涯を通じて学び続けられる仕組みづくり

北九州市生涯学習ビジョン （次期生涯学習推進計画）

<計画のコンセプト>

“学び”と“活動”による
関係作りを通じた
多様なコミュニティの醸成

「私たちごと」化を通じた
北九州市の未来を創る
人材の育成

<計画の基本方針>

【“学び”と“活動”】

自分らしく、生き生きと
暮らすことができる
“学び”と“活動”の機会の創出と推進

【地域づくり】

持続可能な地域づくりに
向けた地域力の育成

【人づくり】

未来の社会の創り手を
育て・支える人材の育成